歴史が宝

# 陸別町100年のあゆみ

陸別駅開業ごろの大通。写真中央に立つ大木の向こう側に駅がある。徳冨健次郎が関農場を訪ねたころの駅前の風景

明治40年代の関農場

関農場開拓に従事した関親子

## 陸別誕生

陸別の開墾は、徳島藩医だった関寛斎と4男の又一が入植したことに始まる。

明治20年代になると、徳島では北海道開拓が奨励され、移住が積極的に進められていた。社会性を重んじ、弱き者の救済、資産の社会還元を信条としていた寛斎は、明治の初めごろから、日本の発展には北海道開拓が重要であるとし、開拓構想を考えるようになった。

1892（明治25）年、又一は、寛斎の薦めで札幌農学校予科に入学。1900（明治33）年に十勝を現地調査し、翌1901（明治34）年、自らの経営を念頭に置いた卒業論文「十勝國牧場設計」を提出し卒業。同年、陸別・斗満（トマム）原野に入植した。

1902（明治35）年、72歳の寛斎は徳島で金婚式を挙げ、間もなく現地を出発した。3男余作と共に鉄道で札幌から当時の終点だった現在の南富良野町落合に向かった。そこから寛斎は、徒歩で、狩勝峠を越え、清水、帯広、池田（利別）、足寄を経て、札幌を出発してから5日後、無事に斗満に到着した。この1902（明治35）年こそ、陸別開拓の第一歩として記念すべき年である。

斗満原野の開拓は、苦難の連続だった。息子・又一の騎馬隊入営により関親子は離ればなれになる。また、農産物のそば・馬鈴薯・大根などの収穫は霜害のためほとんど無かった。このような言語を絶する年を乗り越えながら開拓は進められたのである。その間、寛斎は周辺の人やアイヌの人たちを無料で診察するなど、医療奉仕も行っていた。

陸別に道らしい道ができたのも、国鉄網走線が開通となったのも、寛斎の入植後の話である。交通の発達は、陸別にも入植戸数の増加をもたらした。1912（大正元年）年10月15日、寛斎は自らの夢を又一に託して、斗満の地に果てた。寛斎の死後、大火災、大凶作と人々の不安と苦悩は続いた。しかし、人々はあきらめることなく、農場づくり、公共施設の整備、青年会の組織、さらには文芸雑誌『交友』『北潮』の発刊など、酷寒の地にも豊かさを見い出していった。そして1919（大正8）年、足寄外3村戸長役場から分離して陸別村が誕生した。寛翁没後8年のことであった。

## 道内でも早かった文芸活動

関寛斎は、文豪徳冨健次郎（蘆花）と親交が深かった。徳冨健次郎は、陸別駅が開業した翌々日の1910（明治43）年9月24日、斗満の寛斎を訪ね、1週間ほど滞在している。1913（大正2）年に刊行した、随筆集『みみずのたはこと』に「関寛翁」の章がある。1908（明治41）年春に寛斎が東京の徳冨健次郎の自宅を突然訪ねてきたこと、その後の親交、陸別や関農場を訪れたときの様子をつづっている。

文豪が陸別についてつづったことが影響したのか、陸別での文芸活動が産声を上げるのは、道内でも早かった。1916（大正5）年に河本富士男と女川兼太郎の青年2人が、文芸誌発刊を目指し、会員の募集や会員の交流の場とするための会報『交友』を発行した。内容は青年の教養向上で、陸別ばかりでなく、池田や訓子府、釧路、函館、道外からも埼玉、茨城、東京などから参画した。1917（大正6）年に通巻第5号を発行。このときの会員は、陸別18人、道内25人、道外14人の合わせて57人まで増えていた。

翌1918（大正7）年に「北潮社」を発足させ、総合文芸誌『北潮』を1921（大正10）年まで発行した。その後は、1923（大正12）年に陸別青年会の会報誌で、新聞の役割も果たしていた『新淫時報』（1925年に改題）へとつながった。現在も町民文芸誌『あかえぞ』が発行されるなど、陸別の文芸活動は脈々と受け継がれている。

参考：『陸別町郷土叢書 原野を拓く～関寛開拓の理想とその背景～』『陸別町郷土叢書第四巻 叢樹にいどむ～農林業逸史～』『陸別町郷土叢書第五巻 凍土に育んだロマン～郷土文芸の系譜をたどって～』（以上、陸別町役場広報広聴町史編さん室編集 陸別町発行）・「関寛・又一 北海道開拓構想と実践」（陸別関寛翁顕彰会発行）

## 陸別の林業

**（文・帯広百年記念館学芸員　大和田努）**

豊富な山林資源を持つ陸別町では、網走線（のちの池北線）が開通した1910（明治43）年ころから造材（木材の切り出し）が本格化した。

1913（大正2）年には、王子製紙と関連する造材事業所が開設された。このころは、農業が安定せず、不作になることが多く、一年をかけて耕作するよりも、林業関係の仕事をした方がすぐに現金収入に繋がることも多かったようだ。

1919～1920（大正8～9）年ころには、営林署による国有林の造材事業のほか、王子製紙、富士製紙、三井物産をバックグラウンドに持つ造材業者が活発に国有林の払い下げを受け、木材の切り出しが最盛期を迎えた。1918、19（大正7、8）年ころは、陸別市街の大通りは木材で埋まり「朝寝坊をして店を開けたら木材で外に出られなかった」「小利別に料理屋が4、5軒あって昼から騒いでいた」という話も残されている（『陸別町史 通史編』陸別町役場広報広聴町史編さん室編集、1991年、577ページ）。

1921（大正10）年ころからは、造材事業の他にも木材の付加価値を高める木工業が活性化し、陸別や小利別に木工場が相次いで操業。町内には、木材を利用したさまざまな店が営業していた。板の製造はもちろん、馬そりや下駄などの履き物、家具・建具などのお店が軒を連ねた。

陸別の林業が興隆した時期は、勲祢別（クンネベツ）川、トマム川で流送（川に木材を流して運ぶ運搬方法）や森林鉄道で木材が大量に運ばれた。美里別川流域や音更川上流域でも陸別と同様に造材事業が盛んに行われた。

こうした隆盛は戦後も続いたが、昭和40年代後半に、国内の木材需要が低下したことを受け、林産業界は不況になり、企業の合併や廃業が進んだ。しかし現在でも、陸別町は面積の約8割を森林が占め、林業の町として知られている。十勝は農業を基幹とする地域社会を形成しているが、林業もまた開拓時代から現在に至るまで、地域の発展に重要な役割を果たしてきたと言えるのではないだろうか。

戦後間もないころの陸別営林署貯木場風景。写真中央付近が陸別駅。うずたかく木材が積まれている（ユクエピラチャシ跡から北東の陸別駅方面を撮影）

### 関寛斎資料館

陸別町大通
（道の駅オーロラタウン93りくべつ内）
問：陸別町教育委員会 ☎0156・27・2123
開館時間：9時30分～16時30分
休館：月曜（祝日の場合は開館、翌日休館）、年末年始
料金：1人300円（中学生以下及び陸別町に住所を有する者は無料）

## 陸別のあゆみ

**1869年**
【明治2年】開拓使を設置
松浦武四郎、蝦夷地名について開拓使に上呈する。釧路国（久摺）内に「リクンベツ」記入あり
蝦夷を北海道に改める
【明治30年】北海道国有未開地処分法公布。この年より陸別原野の区画測定が行われる
【明治34年】関農場、斗満原野貸付を受け、関寛斎の四男・関又一が入植
【明治35年】関寛斎、余作と共に斗満に入植
関又一が斗満に私設駅逓所開設
【明治42年】第一陸別特別教授場開設（足寄教育所付属）
【明治43年】陸別・上陸別地区、区画地貸付始まる
陸別郵便局設置
網走線の池田―陸別間77・4km開業
網走線、陸別から野付牛（北見）まで開通
**1919年**
【明治44年】公設陸別消防組設立
【大正8年】足寄外3村戸長役場から分離、陸別外1村戸長役場設置。初代戸長に永井市二着任
陸別村農会設立
陸別市街へ送電開始、電灯がつく
【大正12年】陸別2級町村制施行、陸別村とする。村会議員12名選挙。世帯1315戸・人口6442人
**1930年**
【昭和5年】陸別市街地に電話開通（25基）
陸別野球協会設立、後援会も発足する
【昭和16年】陸別森林組合設立
【昭和19年】陸別保育所開設
【昭和23年】陸別村農業協同組合設立
陸別村、足寄郡釧路支庁より十勝支庁に編入
【昭和24年】陸別（リクンベツ）村を陸別（リクベツ）と改称
【昭和25年】村広報紙「新陸別」を発行
【昭和26年】斗満地区を陸別村に編入
【昭和27年】公選制による陸別村教育委員会発足
【昭和28年】陸別町制施行
陸別商工会設立
【昭和32年】簡易水道完成
【昭和36年】陸別建設業協会設立
【昭和37年】十勝岳噴火により町全域に降灰
陸別高等学校校舎完成
【昭和43年】開基50年・町政施行15周年記念事業
【昭和48年】陸別小学校新校舎へ移転
【昭和49年】陸別高校閉校。町立国保診療所開設。
みどりの園落成
【昭和53年】開基60年・町制施行25周年記念事業
【昭和61年】カナダ・ラコーム町と姉妹都市提携調印
【昭和63年】開基70年・町制施行35周年記念事業
小利別に日産自動車テストコース第1期工事着工
**1989年**
【平成元年】第三セクター「北海道ちほく高原鉄道」ふるさと銀河線開業
【平成7年】陸別浄水場完成
【平成10年】公共下水道供用開始
りくべつ宇宙地球科学館オープン
開町80年記念事業
【平成11年】銀河の森コテージ村オープン
第11回「星空の街・あおぞらの街」全国大会開催。（高円宮殿下・妃殿下来町）
【平成12年】オーロラタウン93りくべつが道の駅に登録
【平成15年】WRC2004年ラリージャパンの開催が決定
【平成16年】保健センター・陸別町国民健康保険関寛斎診療所オープン
【平成17年】ごみの有料化スタート
【平成18年】「ふるさと銀河線」廃止
【平成20年】「ふるさと銀河線りくべつ鉄道」運行開始
【平成22年】陸別小学校全面改築
【平成25年】陸別町高齢者交流センター完成
「ふるさと銀河線りくべつ鉄道・百恋駅」完成
【平成27年】陸別町給食センター完成、給食事業開始
「コミュニティプラザ☆ぷらっと」オープン
【平成30年】開町100年